



江戸時代前期(松平光長公時代)の高田城下町 上越市立高田図書館所蔵資料より

## 高田のまちのかたち

高田のまちは、徳川家康の六男松平忠輝公によって、慶長19年(1614年)に築かれた高田城の城下町として整備されました。わずか4ヶ月で完成させたお城は石垣を用いず、天守閣もありません。

城下町の特徴は、東側を除きお城を凹字型に囲むように町が配置され、並行する南北2kmの通りが5本もあることです。そのメインストリートには北国街道を通し、問屋や商店、旅籠が建ち並び、それぞれ職業に応じて、奥行きが長く大きな吹抜けがある町家に集住しました。その家々の軒先を伸ばし、公共の通路に提供する雁木通りは、今も総延長16km、日本一の長さを誇り、冬の雪から人々の生活を守っています。

城下の一番西には寺町が置かれ、お城のシンボル本丸三重櫓からは、夕日を背にして浮かびあがる寺々を拝することが出来たといわれています。二本の寺町通りには、今日も66の寺院が立並んでいます。

高田は藩主榊原家で明治維新を迎え、まちは地域の中心商業都市として映画館や洋風の商店が生れ、新しい建物も立並ぶようになり、近代都市として変貌していきます。まちを歩くと、現役最古といわれる映画館やモダンな装飾を施した建物を見ることが出来ます。

## 上越市 文化振興課

編集委員 企画:太田均 執筆:佐藤和夫、関由有子 イラスト:ひくちキミヨ  
〒943-8601 新潟県上越市木田1丁目1番3号  
上越市役所(第3庁舎)

TEL 025-526-6903 FAX 025-526-6904

# 高田まちなみ歴史散策

其之参

まちの歩き方 達人編

市上越



歩けばわかるまちの魅力